



魂（たましい）のパスポートくださいな  
遅い台風5号が運ぶ蒸し暑さが増す中ですが、暦では本日は立秋、残暑お見舞い申し上げます。津アスト3階の掲示板に蝶が翅を休めて開場を待っているようでした。魂の化身とも言われる蝶どこに旅立つのでしょうか。不思議な時間でした。

「聞き書き伊勢教室」研修は、熱かったあ！  
講師の小田豊二先生の熱気が20名余の受講生を蒸し上げるような、8月5日の様子です。会場は伊勢市岡本のホームホスピスあこやの2階の間です。「聞き書き」に関心を寄せる方々が、こんなに居られることにも驚きました。気になる方の人生を活字にして差し上げたい！と思っ方々です。  
人生で体験した事柄を話すことも無く墓場まで持っていくしかない人が大半でしよう、私は思います。語り残さなければと思いついても時が常の世です。聞かせて下さいあなたの話を。まとめさせて下さい一冊の本にこれが地域の力につながることを願っています。



老耄（ろうもう）という恵み

私の15歳先輩、老在宅医の大井玄先生は、師事したい方々の中でも笑顔の素敵なお人です。雑誌「みすず」の連載最終号の題の老耄とは、文字どおり老いて耄碌することです。歳とともに衰え行く命の流れを平静に受け止めることは難しいようで、世間ではいまだに認知症という言葉に嫌悪や恐怖を抱く人は多いようです。



社会医学者でもある大井先生は、沖縄の調査で慣れ親しんだ土地で、ゆっくり老い、誇りを傷つけられることなく尊敬される認知症老人が不安を持たないため、周辺症状が少なくと気付かれた。また精神科病院で、認知症の方に癌が合併しても不安や疼痛を訴えるのが少ない傾向も経験された。90歳何がめでたいという高齢者が増える時代、がんで死ぬ事と老耄が少なからぬ人待つ道なら、苦痛のない大往生へと自然の恵みにならないかと私にも思えます。尊厳を持って最期まで生きることを許してくれる社会がそれを支えると思います。

終末期・看取り・尊厳死など、最期だけ格好良く辻褄を合せる考え方には到底賛成できません。老耄を生きる、ということが試金石のようです。身体には耐用年数があり、百年もつようには、自然は作ってくれません。年齢と言つ文字の「齒」が象徴するように、歳がきて、やがて食べられなくなるのは、生老病死、自然の営みなのでしょう。

休診日のお知らせ

お盆期間は、8月14日（月）15日（火）を休ませていただきます。

蒸し暑さは続きます。少しずつ水分を補給し、エアコンを除湿にして、熱中症対策をして下さい。



いせ在宅医療クリニック  
自宅での人生を 最期まで支援します  
〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105  
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp  
ホームページ http://isezaitaku.com

↑バックナンバーはここで閲覧可